



近世说美少年録

六編
二

~ 13
3567
27



門 13
號 3567
卷 27

石童子訓卷之十二



東都 曲亭主人人口授編次

家傳の刀子兩善少年と留む

百金の詮書同居の母子と裂く

童説大江杜四郎成勝の朱之介が射る二の箭を拂ふ剽輕目覚く彼
の既の盡し客の勢ひ地と易て早くも射るふる隨小盾と
射る可と刺きて射んと馬と找れ朱之介の心憐て悔しく思ふ今
はら小已死あらざれば弓と捨遣り小盾と取て馬と東西小馳達せ寄て
組む欲されとも杜四郎の入馬一致の奔蹄迅速自由と他と亮も
近づき西へ走らせ東へ返して互小馳り馳らる。鈴なる鑼の音丁々たる
蹄の聲言孰小暇あるける馬の汗人の疲る末の憶を乘後れ之向程

石童子訓卷之十二

文藝堂藏

早稲田 大學 圖書館
346.3 類
藏 書

よりり、杜四郎、昔さす身と反ら、刺と射る強音高、馬上の強
弓、朱之介の小盾より受まき、何ぞ及ん、鈍や右の肩尖を射られて骨
徹さす、疾痛と忍び馬を回して、避まき、那時、遅く、杜四郎が射さ
二の箭、朱之介の胸を射られて、一聲、呀と叫び、果て身と仰反り、馬の上
で、大地の塵と塵半、是と見る者、堪むや、ありけん、齊一、吐と笑ひける、當下、豆
賀の伴、當名、兩個の鑢奴と共、侶、東の集會所より、遠く走多、或は
馬を牽、駐め、或は朱之介の身を合せて、掖起さす、彼、朱之介の墜けし時
馬、酷く踏れ、か、速く、苦痛と忍び、聲、振、絞りと、衆人、さ、俺
と、笑ひ、俺、豈、彼、箭、射らむ、と、避んと、考、諺、鑢、外、と、隊、たる、と、
と、鑢、奴、さ、あ、ど、そ、負、惜、と、是、見、あ、身、の、衣、裳、胸、も、肩、中、桐、反
粉、ま、く、塗、ま、これ、射、られ、迹、分、明、卒、立、ぬ、と、君、も、肩、掖、被、辛、く、と、

集會所へ以て去りければ、這里に在る少年、朱之介の口の、口を、憎、と、
勦る者も、開が中、賀志、賀政、賢へ、救、親の、吹、奉、る、朱之介、
が、夏、の、為、体、の、且、差、且、暖、い、立、も、然、而、在、る、衆、あ、ら、れ、伴、の、奴、隸、の、吟、附、と、朱
之、介、を、宿、所、に、返、す、所、管、の、奴、隸、毎、朱之介、と、搭、駝、り、賀の、宿、所、に、お、つ、て、
あ、あ、け、れ、留、守、る、老、僕、あ、る、ゆ、ゆ、と、朱之介、の、背、に、被、る、戎、装、衣、裳、と、脱、日、易、
せて、猛、可、の、便、轎、に、ら、ち、載、て、吾、足、齋、の、宿、所、へ、と、送、遣、し、た、り、け、れ、是、を、見
る、者、の、い、り、て、他、へ、い、も、胡、慮、あ、る、ゆ、ゆ、と、是、より、先、高、頼、主、末、大、江、の、聞、射
果、し、時、左、右、の、ゆる、り、賀、典、膳、と、高、嶋、石、見、衆、と、見、久、の、て、汝、等、と、何、と、思、ふ、や
彼、大、江、杜、四、郎、峯、張、菜、六、郎、の、槍、棒、弓、馬、の、今、日、の、試、較、の、花、の、實、之、因、て、這
里、召、さ、せ、此、の、賞、禄、と、取、ま、べ、然、れ、も、又、彼、末、朱之介、の、翔、鳥、と、射、て、隊、中、に、
る、修、鍊、と、思、ふ、凡、庸、な、少、年、あ、ら、む、と、不、幸、小、と、他、の、一、位、を、成、勝、通、能、と、

敵は自ら志れがごとく竟に後れを取つらぬ他は負うるを欲せざるのみならず、
 彼も彼も辯ふも彼も飾りて人を誣るが如きの實は是憎むべし。當城内を壯
 校給る漫不他、（後朱之衆と城の中に入つて） 示めよと理り切て諭さる。曲膳は昔は汗を仰畏るの素
 正の臣も彼朱之衆と然る者との思ひを、今日試敷の口俱ふと後悔の
 外いふと陪話ると高頼主守あき不否汝と疎忽とまで答るものなきか。の
 でもあつたところ、今戦國の最中おあられ一藝ある者と薦奉て君の役小立
 ちくあつた臣の者職分は然らば其人毎小賢良の者のあらんやと擇て
 用ると用ひさるとは是も君の者職分は今よりの後朱之衆は懲るも薦奉て
 宗とせよ何の恥るにあらんやと最鷹揚る君命は曲膳は稍心を畏りて
 京一ける當下高頼主守又石見衆と見え久と要る言ふ時や程らぬ彼成

勝と道能と又蝮く召ねといそが、石見衆の阿と登て出で杜四郎と朱六を
 俱して架屋かへる。かど望え上へ高頼席を改めて件の両少年は對面
 あり且の憶ふ倍る汝等の武藝剽輕一人當千は、俊傑る哉但
 未成勝は天飛鷹と射て墜ま時傷つけ、一隻羽を縫へ偶然るや然る
 ありて、あつたその技の秋と回して杜四郎頭を拾けて然る漢籍の例を
 思ひ小鷹の素是信義の鳥之是を、秋毎小來實は徳と諸侯は比
 らざる。その故に諸侯の贄ある鷹と執といふ。然れば今函守の御意は従ひ
 まる。射る隊ま鷹をも殺して捉らぬは、形（鷹の如く）の如く小仕りぬと言來
 陳しか、高頼感悦大なるを憶む膝を打鳴りて然也々々宣定は然汝
 武藝のまろむ、文学も亦今の世に稀る才子といふべし。今日よりの道能と
 共侶小予は、秩禄の乞ふに任せん諸國と遊歴するとかいと連り小留め

己ざりきと。杜四郎ハ何とをうらふ。応難々後方ハ侍る。采六を見えりて。俱合
 稟を申す。思ひかひきた御懇命と推辭まらる。無礼るまとも。臣等ハ素より情
 願ありて。共武武者修行ハ出する。ふらま。百里の路も。もて。ま。仕官と求むべ
 けとの。免させあう。と辭ふ。高頼。主守。あ。開ハ然る。故も。あ。け。ま。も。
 藝術未熟の者。る。武者修行。ま。あ。ん。修鍊の上。要る。の。飲。と
 諭せとも。四郎。采六。を。従。ふ。も。あ。ら。ざ。れ。ば。賀。曲。膳。高。嶋。石。見。共。侶。ハ。膝。を。進
 め。言語。齊。一。説。論。せ。とも。杜。四。郎。も。采。六。も。只。云。云。と。固。辭。の。言。果。べ。く。あ
 ら。ば。れ。ば。王。君。の。後。方。ハ。侍。る。曾。根。見。五。郎。平。堪。也。あ。の。け。ん。突。然。と。進。ま
 出。杜。四。郎。も。あ。ら。ち。向。ひ。名。止。口。と。ま。且。の。あ。う。和。殿。も。さ。り。の。情。強。い。て
 も。あ。る。た。と。ま。が。我。君。の。せ。う。當。國。の。大。國。王。京。都。將。軍。家。の。御。為。ハ。御。後。見。を
 ぞ。う。ま。せ。ば。王。君。ハ。取。て。不。足。ハ。あ。ら。ず。よ。も。る。虚。辭。退。し。後。悔。を。る。ま。あ。ひ。そ

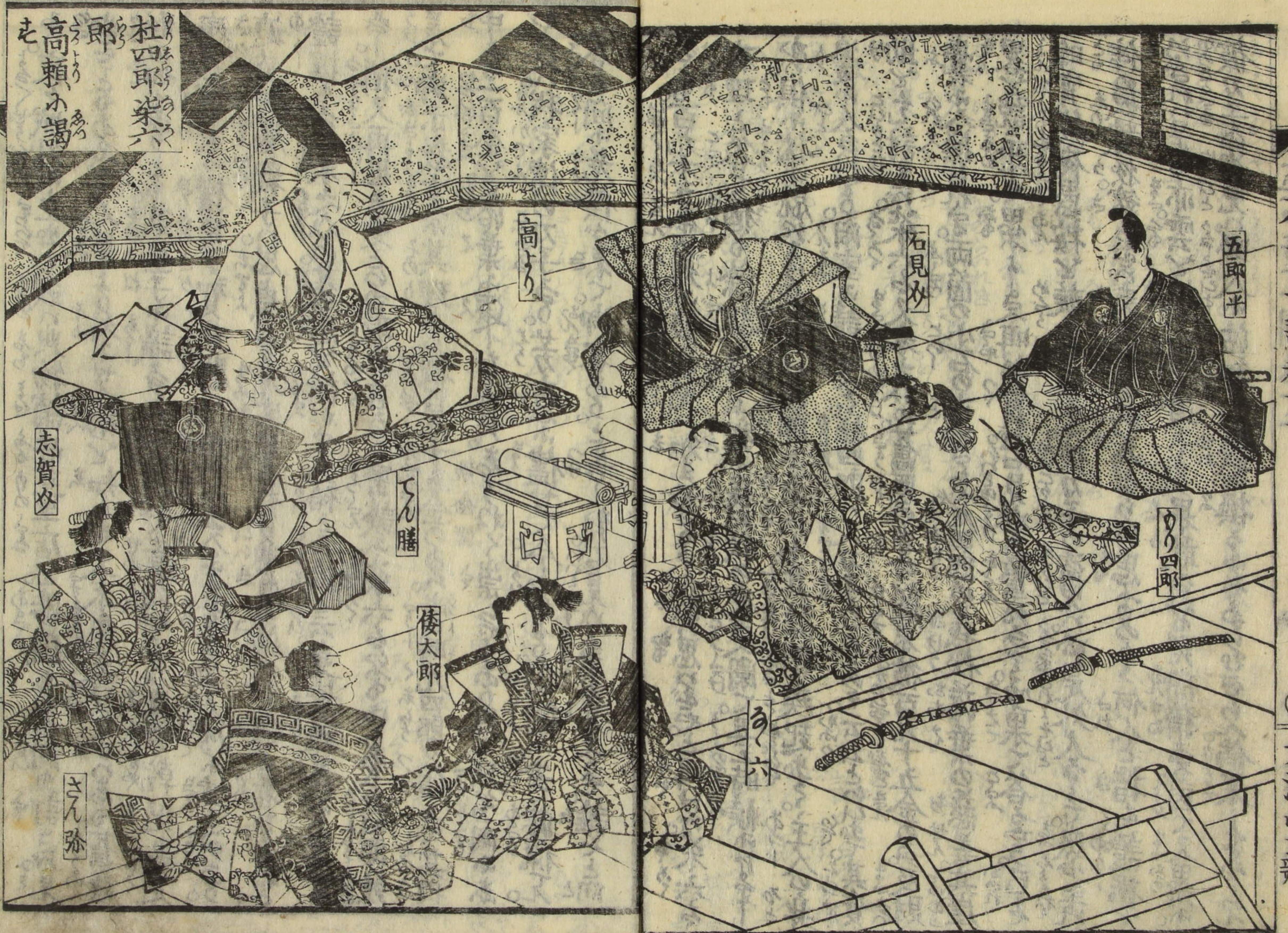
と挑む。采六。あ。ざ。勃。然。と。一。と。答。る。ま。う。開。の。い。る。ま。う。ま。う。人。各。情。願
 あり。匹。夫。も。志。と。大。傳。へ。ま。已。も。主。僕。の。故。御。ハ。親。あり。兄。ま。あ。果。教。不。悖。と。
 他。御。の。君。ハ。仕。へ。ん。と。の。果。采。杜。四。郎。ハ。目。と。注。せ。推。禁。め。更。ハ。曲。膳。石。見
 衆。も。向。ひ。て。謹。々。稟。ま。す。御。説。の。実。ハ。有。か。た。ま。辱。く。い。へ。も。既。ハ。采。六。が
 稟。ま。り。如。く。臣。等。ハ。父。兄。の。為。ハ。己。が。た。す。の。い。へ。い。で。只。の。儘。ハ。放。ち。遣。せ。ぬ。え
 とも。願。ひ。ま。つ。る。の。外。ハ。い。な。御。縁。結。ま。異。日。又。見。参。入。る。目。も。あ。ら。べ。の。美。宜
 ち。御。執。成。と。辭。ふ。高。頼。王。も。ち。つ。て。ま。ら。ん。あ。是。非。ハ。及。び。抑。直。念。の。断
 ぬ。五。郎。平。賞。祿。と。取。せ。と。仰。五。郎。平。阿。と。答。て。懷。小。あ。う。け。目。録。二。通。と。會
 出。て。卒。と。遞。與。其。四。郎。采。六。受。戴。は。う。用。見。る。近。江。布。十。反。沙。金。五。包
 大江。杜。四。郎。へ。と。あり。采。六。が。受。る。目。録。も。亦。是。小。同。小。を。卷。收。め。懷。小。ま。く。俱。小
 恩。を。拜。と。公。を。小。人。毎。ハ。然。せ。る。功。を。介。る。小。是。ま。の。賜。と。受。ち。ま。ら。ん。あ。ら

ちぞ然りとて又辭ひまうらふ不敬の罪と増ゆやせん。殆當惑仕ぬと謝する高頼
 主うち辱せ然るる東西何れあらん。今日武藝と賞するの尚よの地所要あらん。
 逗留隨意多し。石見父も這意とて他郷へ立去り先くちて予の
 報よ卒退らんとて立ぬ。賀曲膳曾根見五郎平以下の近臣相從を俱と
 後堂へも赴く程。石見父の傾け落ちて下晡する。當下杜四郎宗六も高嶋石
 見父と共に侶の遠く架屋と出て土居で圍守と目送果て杜四郎の要あらん。石見父の
 袂と曳て請きて集會所へ退く程。試敷の爲に石見父を少年の昔かたりの去り
 只高嶋の伴當と十餘箇の夫役等をも残りて幕の外に在り。其餘の人の多くも
 杜四郎の密書と石見父の遺言を。斯の何とや。面正しくもるる。御下
 憶りる。這腋挿の刀を附する。刀子と失ひぬ。抑俺這両刀の昔天喜の年間鎮守
 府將軍源頼義朝臣の爲に石見父の刀子が作る所青海波の三言銘あり。其後

其の春秋と麻して。建入の年。我遠曾大江廣元頼朝卿の賜り。と
 父家の口碑。傳へて。父の遺書。や。稍知りぬ。刀子も亦同作。老小柄。則全百
 金。る。波濤。知鳥。高彫。あ。紛。る。身。も。代。に。至。寶。され。今日も
 亦腰に放さむ。口晝飯。賜る時。解て傍に置けり。折る。衆少年。伴當。あ
 夫役も。多く。立。綱。を。混。雜。の中。る。け。れ。ば。此。事。も。あ。ら。む。と。ん。我。爲。其
 盜見と穿鑿。登て。と。久。し。て。ぬ。ね。と。馮。ぬ。又。宗。六。も。聲。を。低。めて。御。向。小。可。も。推。並
 ひて。其。傍。に。在。る。る。毫。も。心。づ。か。ら。ず。野。狐。也。魅。され。け。ん。面。を。く。そ。ひ。る。と
 と共。明。く。秘。密。の。要。事。を。石。見。父。に。列。々。と。所。果。て。嗟。嘆。小。堪。む。屢。四。下。を。見
 たり。現。安。く。ぬ。り。る。死。頼。ま。む。と。も。を。俛。み。捨。措。く。べ。し。の。あ。ら。む。と。る。れ。の。暮
 る。程。も。る。知。又。よ。の。處。の。長。談。の。室。あ。ら。ぬ。誘。め。宿。所。へ。退。り。て。左。中。右
 の。主。張。せ。ん。と。い。つ。更。の。聲。振。立。て。伴。當。等。を。召。と。きて。の。ち。く。立。杜。四。郎。の

朱六も相従て宿所へいそぐ程ふの目も果敢る暮春のけり復説高嶋の
 宿所を主人も客も終日の疲労をたふさるこれ共ふ夕饌を果して後又眠く
 臥房へ入りかど杜四郎今日失ひ刀子のあつらひて睡りとまほふの
 縁れなき思ひ朱六も小横見と被た向坐してうら譚ふ語次朱六が
 中今日稠人の中りとも刀子の失ひの怪をた猶怪をた朱之众を試験
 隊へ入りし其来麻止と知らざる左中右中もあつらひたるおのどと推捉
 へく敲る他奴が竊合て石と換玉の扱せしる二百九十五金ののりら刀子
 盗見をも知る所縁ふもやるべしと杜四郎點頭てその勿論のやうに我
 們的旅客中て權も威もたふ人と捕へて罪と止さば毛と吹れて疵を求ふ
 似たり只高嶋生ふの叫び告て彼人の意見由るふとあつらひの喧嘩も今日
 試験も朱之众の東在る我の西在る其間近うね非除朱之众と責訂

とも百九十五金の外彼盗見の知まかろん然の思ひをやと叫び朱六も
 有理と答て猶も餘談及ぶ程ふ長秋の夜更闌て丑三時候のやうに
 かの俱小枕を就たよけ然に杜四郎と朱六も其詰朝疾起せ主人の身
 邊へ入るなり閑室へ請迎へ杜四郎又刀子の事と云ふと云ふ其資
 助を乞討まの朱六も又朱之众の舊悪の古の顛末彼百九十五金の及財
 事表へ入換られる両箇の小石の更のさら九四郎の義侠落葉の慈善其崖
 畧を説示く思ふより叫び告れ石見人の驚をたる果て答るやうに己を
 昨宵終夜愚按と旋たりけふ彼刀子の盗見の必是外人とて庶少其
 伴の奴隷然らざる夫役等の所為なりと思ふあり何人と指し證據を
 示され是も亦雲と扱風と追ふより果敢るかる能猜する因て又思ふ
 彼刀子の盗見の必人の詰却して錢を換るゆをむむざら倘果しく多ら



杜四郎
高頼小謁

高より

石見女

五郎平

志賀女

倭大郎

八四郎

七

さん弥

六

文藝堂

文藝堂

文藝堂

中の夜々城外に立出く。或の典物舗骨董店と涉獵も多し。同の訂見
 出さるものもへん。是より外にせぬ術と知らぬ。又未朱之次郎の心も舊悪
 形の如く。其金子の識る。切小捉へて責問か。且他乾兒吾足
 齋の當家の權臣。賀典膳の宿所出入者。人傳の事あり。あり
 遮莫典膳親子の思慮。老実家。其目録の沙汰。做さ者。わらわら
 證據も。朱之次郎の舊悪と訴か。裕と云。恰と云。其皆難義。其あり
 一。猶又再思。其あり。最取正首。密談。染六。いも。杜四郎。教
 義。御示教。定。其理。彼百九十五金。の。當時。九四郎。償。其内
 中。二百金。と。落葉。還。た。られ。あ。う。ね。く。崇。ら。も。あり。ぬ。一。只。ち。爾。あ
 が。我が家傳の刀子。芳。意。不。儘。せ。て。今。宵。より。街。衢。出。て。涉。獵。え
 と。答。る。間。小。老。僕。が。来。て。御。客。あり。と。告。ぐ。石。見。次。急。不。見。え。と。誰。と。問。

へ。別人。ら。む。曾。根。見。五。郎。平。宗。玄。が。昨。日。守。高。頼。王。より。杜。四。郎。染
 六。小。賜。り。た。る。沙。金。十。包。と。白。布。と。吊。台。小。載。奴。隷。小。昇。せ。く。み。ぐ。る。齋。表
 束。ぬ。る。も。是。より。石。見。次。の。邊。へ。退。り。て。衣。裳。と。更。む。と。ま。る。程。小。杜。四。郎。と。染
 六。も。袴。と。穿。て。共。侶。小。客。房。小。出。て。對。面。を。送。の。口。誼。言。果。て。五。郎。平。と。又。杜
 四。郎。と。染。六。小。向。ひ。て。い。ま。う。昨。日。の。不。慮。小。君。邊。で。論。辯。過。言。不。及。ひ。と。後
 悔。の。外。の。む。必。る。小。意。志。あ。ひ。を。就。て。其。折。寡。君。より。兩。兄。小。贈。り。あ。せ。し。し
 種。と。齋。たり。と。小。問。小。若。當。黨。等。が。玄。関。より。運。び。來。ぬ。四。箇。の。有。脚。の。大。折
 敷。小。分。ち。載。る。沙。金。十。包。と。白。布。二。反。及。て。處。陝。を。置。直。並。れ。四。郎。染。六。額
 衝。兼。て。言。語。齋。一。答。る。も。う。武。藝。の。家。業。の。る。る。小。功。あ。ら。む。と。思。願。を
 受。ま。す。と。く。の。あ。ら。ね。ど。推。辭。稟。さ。不。敬。と。い。ま。る。異。日。又。好。絶。と。い。て。稟。上
 る。よ。も。あ。る。べ。し。這。美。宜。く。御。兼。と。頼。と。ま。る。ふ。と。と。云。其。語。を。接。て。石。見。次

も五郎平の謝り。今日の一先、宰領の走卒のそとである。五郎平の
光臨當りか。己も程よく仕立て。御恩を拜し。さるべし。と云ふ五郎平。否
咱等大江山峯張の両才子。送別を兼する。幾比立去ぬ。と問れ。と
杜四郎。然し仕官を辭ひ。上へ。去る。思ひ。争何せん。已に。要
緊の。出来。か。猶又時日。思ふ。長逗留。宛。飲料。が。いと
云ふ五郎平。領。て。開。左も右もの。其日。定。高嶋。主。疾。上
ぬ。暇。身。起。石見。推。禁。可。の。中。儲。け。れ。薄
茶。一。服。あ。せ。え。と。云。刀。と。曳。も。そ。天。く。い。へ。も。知。ら。く。如。く。多
務。る。異。日。推。参。仕。ら。と。推。辭。々。立。出。る。と。四。郎。茶。六。石。見。の。主。関
ま。で。是。と。送。り。異。口。同。様。の。勞。ひ。け。り。か。て。杜。四。郎。等。の。主。人。と。俱。退。は
悄。や。小。談。さ。る。豫。心。と。知。れ。如。く。仕。へ。と。去。る。我。們。が。い。う。か

あ。這。賜。と。受。れ。や。あ。さ。の。儘。小。藏。の。置。て。異。日。の。地。と。立。去。る。の
後。宝。庫。の。返。一。玉。ひ。ね。と。憑。め。石。見。の。沈。吟。ど。開。き。最。難。義。の。役。を。と
志。あ。る。者。の。孰。も。か。く。と。あ。げ。れ。る。と。云。と。心。を。恥。老。僕。と。言。て
件。の。沙。金。白。布。と。長。櫃。の。毒。ま。る。親。封。と。昇。せ。土。庫。遣。し。其。身。の
若。黨。奴。隸。と。ぞ。君。所。へ。仕。も。る。是。日。長。橋。倭。太。郎。勢。泰。象。船。等
弥。知。量。の。大。江。杜。四。郎。峰。張。茶。六。の。試。較。の。勝。と。賀。せ。と。石。見。の。弟。子
等。と。共。侶。の。高。嶋。の。宿。所。へ。來。り。け。れ。件。の。大。江。峯。張。の。猶。逗。留。ま。と。云。知
す。と。飲。ぶ。と。大。く。さ。る。是。よ。りの。後。回。り。時。を。参。來。く。討。論。を。依
程。の。賀。志。賀。政。賢。も。早。晚。其。隊。へ。入。り。て。交。り。浅。く。む。む。の。け。り。然。し。杜
四。郎。茶。六。の。書。こ。を。交。遊。の。為。の。暇。を。け。と。夜。の。訪。來。る。人。の。あ。ら。ね。ば。彼
刀。子。と。云。ね。ま。く。欲。ま。れ。石。見。の。案。内。の。為。の。俱。小。微。服。を。夜。毎。城。外。へ

立出づ。とさく市小園。程小秋。晝於て霜寒。於十月の中。院ふるる。まぐ。
 いま。便り。とゆ。さる。ける。休題。再説。未朱之。众。晴賢。の。那日。大江。杜四郎。の。
 射て。落。され。て。落。馬。あ。馬。踏。ま。く。腰。骨。を。損。ひ。さ。る。る。初。峯。張。
 染。六。小。習。学。槍。り。て。衝。ま。し。時。の。撲。傷。も。一。度。お。發。り。お。け。胸。痛。を。身。の。軀。
 斃。て。堪。づ。も。あ。ら。ざ。り。と。又。賀。の。奴。隸。の。吟。吟。ら。て。开。が。俣。復。轎。ら。ち。載。て。
 宿。所。お。送。り。ま。お。け。れ。母。の。阿。夏。の。老。苧。い。さ。ら。へ。无。四。郎。の。吾。足。齋。の。あ。ら。ら。ふ。
 と。驚。馬。に。惑。ひ。て。夫。婦。右。より。左。より。復。轎。る。未。之。众。と。扶。出。の。軀。く。小。子。
 全。口。お。臥。夢。の。事。の。顛。末。と。同。ま。さ。る。未。之。众。の。口。に。嘔。く。の。言。詳。る。と。ま。ま。
 吾。足。齋。已。と。と。ゆ。も。又。賀。の。奴。隸。と。勞。ひ。て。朱。之。众。が。怪。我。を。言。首。尾。を。
 詰。ま。し。奴。隸。毎。の。秘。ま。さ。う。く。彼。大。江。杜。四。郎。山。峯。張。宋。の。射。藝。槍。法。衆。の。
 本。秀。と。朱。之。众。が。懲。ま。さ。る。二。度。ま。ま。試。敷。ま。ま。と。一。槍。の。由。ら。中。も。ち。負。て。果。大。

江の飄箭。射て。落。され。て。馬。踏。れ。其。事。の。光。景。を。少。く。は。説。示。し。と。
 告。別。の。外。に。出。て。二。人。の。空。復。轎。と。拾。起。一。人。の。又。箱。挑。燈。の。蠟。燭。を。按。更。て。
 城。内。へ。か。り。去。り。か。吾。足。齋。老。苧。の。俱。お。呆。且。腹。立。し。未。之。众。の。生。兵。
 法。に。怪。我。の。基。ま。と。吐。く。の。晚。稻。の。又。始。り。朱。之。众。の。調。戲。を。快。く。思。へ。
 や。網。戸。お。在。り。と。出。て。も。朱。之。众。然。り。と。そ。已。ぬ。ら。ら。後。吾。足。齋。の。膏。某。と。合。さ。出。く。
 朱。之。众。の。痛。處。お。布。る。と。ま。る。程。お。老。苧。の。方。僅。良。人。の。取。ら。湯。液。を。急。煎。
 果。し。て。朱。之。众。の。薦。め。け。り。介。程。お。吾。足。齋。の。次。の。日。又。賀。の。宿。所。お。於。て。昨。日。
 衆。少。年。の。試。敷。の。折。朱。之。众。と。汲。引。せ。ら。し。歡。び。と。宣。示。ま。ま。事。の。首。尾。を。
 も。問。ん。と。此。の。人。情。と。懐。ゆ。く。朝。疾。出。て。觀。立。日。寺。の。城。お。入。ら。ま。る。程。お。
 守。門。の。城。兵。推。禁。め。て。且。お。争。う。汝。の。吾。足。齋。延。明。ら。ま。昨。宵。守。り。御。
 下。知。あ。の。乾。兒。未。朱。之。众。の。も。さ。ら。る。吾。足。齋。と。も。當。城。内。へ。出。入。を。

林示めよと仰付られりける入らまきまの大胆なり。疾りなき。と空君れは吾足
 齋敬馬して開き何の秋知られども。咱考の犯者罪あらまき。そま賀賀大人を
 知らせぬらぬ。いづれ彼大人。吾足齋が参りぬ。と告ぬらる。厄釋て召
 入らる。わをあらむ。いづれ彼大人の御宿所へ。と告ぬひね。口説
 城兵。安んじ。黙置。その鳥。許入。禁門の一條。参賀殿より。拘らる。吾足
 齋が推参。追とも去らまき。と報京。の捕。と。その。然。でも
 去らまき。か。ら。ま。き。と。敦。圍。ま。り。と。立て。權。威。の。捍。棒。捨。合。又。強。く。打。拂。の
 ま。ま。と。け。ま。五。口。足。齋。の。吐。嗟。と。ま。り。不。怕。慌。て。逃。る。時。麓。石。の。積。小。跌
 じて。忽。地。撞。と。輾。び。か。城。兵。の。堪。難。て。齊。一。吐。と。笑。ひ。け。既。小。と。吾
 足。齋。の。膝。頭。と。搦。破。と。疼。痛。の。勝。れ。と。唾。と。塗。る。隻。脚。と。曳。り。城。下
 へ。已。が。宿。所。か。へ。り。ま。り。生。平。あ。ら。ぬ。聲。高。々。と。老。苧。と。屢。喚。近。り。て。

御向小城兵小の。と。那里の。不首尾。箇様々々。と。具小告。て。又。い。尋。畢
 竟。の。朱。之。小。が。怒。る。と。做。出。て。も。負。ト。魂。懲。ま。ま。好。ら。ぬ。口。と。咤。目。の。け。ん
 守。り。ま。り。の。賀。殿。の。憎。ま。ま。と。い。ふ。て。罪。も。る。は。俺。さ。小。禁。門。の。出。示。小
 逢。ん。や。か。る。べ。と。い。知。る。と。も。る。晚。稻。の。面。瘡。愈。果。れ。始。より。猶。美。く
 あり。ゆ。の。那。里。へ。ま。ま。又。婚。姻。を。説。せ。られ。ん。媒。人。の。本。よ。か。と。其。方。の。天。を
 仰。く。ま。で。日。毎。小。俵。の。空。漏。あ。ら。心。鏡。地。糸。の。琴。の。緒。より。も。果。敢。る。断。れ
 へ。ん。の。口。結。ぶ。と。わ。く。る。果。の。比。皆。是。彼。奴。が。所。為。る。ら。ま。と。席。薦。を
 敲。く。腹。立。聲。外。の。夢。え。と。忘。れ。る。然。も。良。人。の。空。情。と。老。苧。を。ま。ま。と。不
 胸。苦。く。て。俱。小。額。と。痺。ま。る。と。又。い。ふ。と。も。る。ら。け。り。折。ら。晚。稻。の。納。戸。小。在
 親。の。高。聲。夢。知。り。て。涙。の。袖。小。よ。る。の。雨。生。ふ。か。ひ。る。志。加。賀。次。と。絶。縁。の
 我。ら。唐。の。世。中。の。罪。障。の。報。る。秋。と。ち。歎。く。壁。は。對。ひ。て。吻。息。の

出雲八重垣まゝ見ぬ夫と絶縁し復結ぶ神る一月も怨めく思ふ小
 春の空櫻腕脱の風の外口るべし是よりの後吾足齋の城内の病架あは
 ちりて玄閑寂くろりかど町家あ猶某と乞ふ得意るたふあらざりて日
 毎小出て朱之众と見え久らむ晩稻も亦枕方小立よることた不戦ふの故小只
 難面て他が安不也。知らむ白也問後とも母の老芋の骨肉の恩愛を
 されて夜小日小看とりて粥を薦め獨朱之みの為小膏某と貼替湯薬を
 煎とて暇もあらむ立掙けい短死初冬の日景と已が為小の猶短しと思ひ
 けり小程小朱之みの病臥二三十日中て撲傷の餘波を瘥り果しかど吾
 足齋の疾視らむ吐るるが腹立志さふそが儘臥て在る程小十月望日
 ろぬ這朝吾足齋の西東る病架小招きて宿所小在らね朱之みの折
 こととられと起出でて蒲團搔遣り口漱死て母の身邊へあかけると何夏の

老芋の見ろと。珠と疼痛の甚麼を始よりと云食の生平小異
 ららざればや。瘦さふ見えむ最芽出るといふとが望を高胡坐髻搔拊て
 喃奶々撲傷の愈への今日のみか五日も六日も前日より起も出ましく思ひ
 かとも阿父耶小面を見らむと睨着らむ燻されと耳置り堪がからん小晩
 稻まら一向の何等の腹の立やえのをゆとて皓々と目と仄る心悪さふ
 今日まも臥釋迦で在るかとも幾まで斯である髪髪と結さ湯中浴
 て俗小の木葉落して朝夕の最寒かふ小刺被の沙汰もあらざとの
 容も何處へかちん残され衣も貸ぬ身装と暇稟さん他人小劣
 る這里のま小日の照るの秋と喧嘩の緒鮮を老芋の夢あを復くも横
 道見鴉の口小悪まると人の謡ふと思ひを登々の何とも宣ねとも咄敗
 衣を解洗ひして綿衣の疾小出まると是被て出て来るか。とひり立

竹櫃る。陸奥太織の紫腸衣と共の合掌を鑑百錢を卒とを躬て取
まれば朱之介のも見き開かば傍小園を喃ゆ思ひ立日吉日と世の
常言の中もふられ。今日より他處小巢を易て邪慳の宿を解脫せん就て阿
爺預け。拘神の代金百兩を目今出ぬひねと云を老若とゆふも
開る亦思ひがらるる始々々の教訓を休何と听方と非如拘神の
即效を晚稻の百瘡愈らとも。休の為女弟品大人との義理ある親子
るる他人を弄く弄盤立て貸借をゆるかると詞を急迫く空君ると朱之
父の冷笑ひて開かば親子間でも錢財の言品出来て後竟は
愛を失ふ世もヨス。我身こそ我母を阿爺の素是他人を思もる
義もあらむ邂逅環會ふたればこそ乾父面へ宿せしるれと犬猫でも吠犬
あらぬ統ふこびの乾か松飯の外中何艱る例もみ。そを見做ふて晚

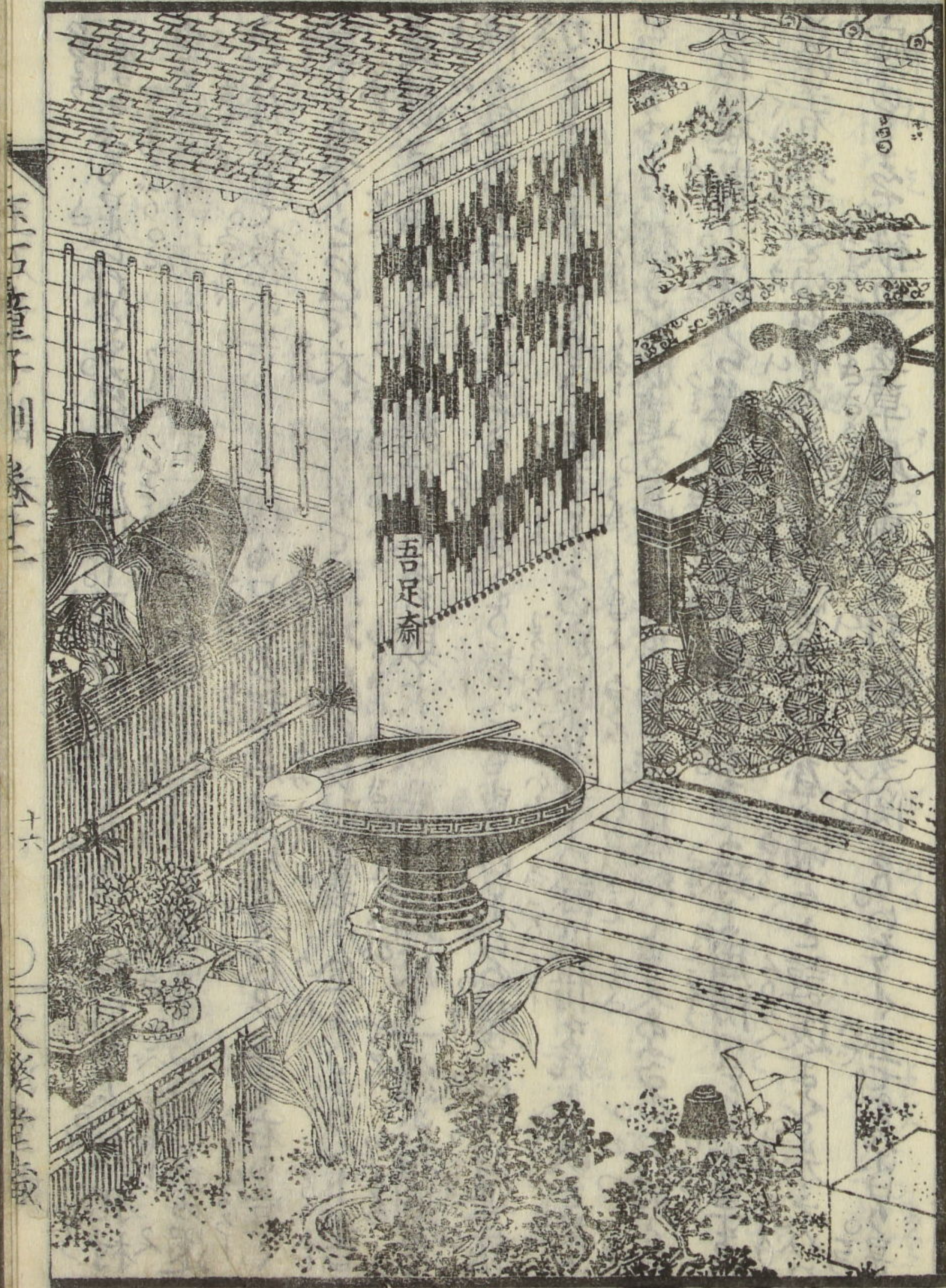
ね。稲まで傲慢高上る無愛想無縁致自慢知らぬも甲斐なけれ何
もの。時世と辛防をこれとも。今日行萬の馳賃は拘神の價を還ね。漸糸
暮る高聲の老若も亦勅とを。不敵の本性親を親と思ふ
昔年周防の山口を。牙西郎殿の逢さる。休のさる。我身と辛防
世不堪難で温焼く浦の煙りも。彼大人の好意ふと伴休
京師の留りて西様。小名置れ我身。單陸奥へおる。金銭財の
富もたのあらざるも。人並世を渡來ぬを思ふ。今百兩と云金の有や
の。大人の。奴家不任せぬ。今百兩と云金の有や
や。知らぬも。縦貯禄ありとも。そと朱之介取せぬ。唯口親ふら。昔
や。鳥飼るるも。と敷圍くと朱之介。笑ひて。そと。昔
年周防の山口を。我親子の窮阨を救ひ。今の阿爺の肚。計較

あると申す。お身小惑ひ一以所を賣り恩恵あらむ。義なる。お身も亦命を
 か。天の地も只一個の子と棄て去れ。藪の下の別と思へ世間の慈悲
 ある親の心と異へ骨肉でせら九九年音信不通で過され。素他人ある今の
 阿爺が乾父涙。金百両と踏す。も取りで。己んや。一も入ら。三も入ら。五
 枚の花餅より大に多。印判押て渡され。彼百両の。實慈あり。是見え
 と懐る。鼻紙の間より。彼一通と會平と。皺と伸。うち用。て。是。は。を
 うち。暖。可。買。取。藥。種。の。事。狗。神。一。枚。價。直。金。百。兩。也。右。於。即。效。有
 之者。明十七日。金子無邊。滯可渡之候。為後照る。實仍如件。
 享祿三年八月十六日。吾足齋。延明印。旅人朱之。又。夫保人宿六
 丈と讀訖り。喃。奶。阿爺の宿。在。る。と。も。か。む。り。正。に。証。據。あ。ま。り
 這一通と交易。お身。彼百兩を。咱。も。不。渡。與。ぬ。と。も。阿爺の。言。口。口。口。

るべ。這照文の。め。の。い。の。り。お身。の。知。と。宣。へ。も。阿爺。の。貯。祿。言。う。は
 正。も。を。秘。措。る。處。も。咱。も。先。刻。猜。し。な。り。是。欲。か。ら。む。や。と。賣。り。弄。る。
 實。と。老。芋。の。機。合。て。見。々。熟。棘。哩。と。引。裂。棄。れ。朱。之。の。吐。嗟。と。む。り。ふ
 駭。慌。々。林。む。む。と。も。及。べ。く。も。あ。ら。れ。バ。勃。然。と。一。怒。不。堪。を。眼。を。瞋。ら。一。聲
 苛。立。り。奶。の。狂。女。狄。乱。心。狄。苟。且。ら。ぬ。百。金。の。實。と。引。裂。棄。れ。れ。て。親
 子。と。と。許。さ。え。や。と。罵。る。面。色。凄。然。を。老。芋。の。見。る。目。の。淚。浴。て。不。吉。狂。亂。せ。む。
 件。の。金。を。惜。も。做。者。一。事。ら。ぬ。と。始。休。と。珠。之。の。知。ら。む。答。々。の。渡。さ
 る。ひ。這。の。實。の。ある。故。の。親。と。親。と。思。ひ。な。り。其。逢。は。休。の。大。怨。心。を。隱。裏。に
 ん。と。引。裂。棄。れ。非。如。今。其。百。金。と。出。て。休。の。取。り。も。有。る。時。の。有。る。ふ
 信。せ。て。湯。水。の。如。く。使。ひ。棄。れ。ぬ。金。の。其。身。の。怨。家。と。知。ら。む。欲。を。思。ふ
 是。小。就。は。て。思。ひ。お。初。休。の。生。ま。り。時。奇。は。の。の。言。り。け。れ。賣。り。小。箱。の

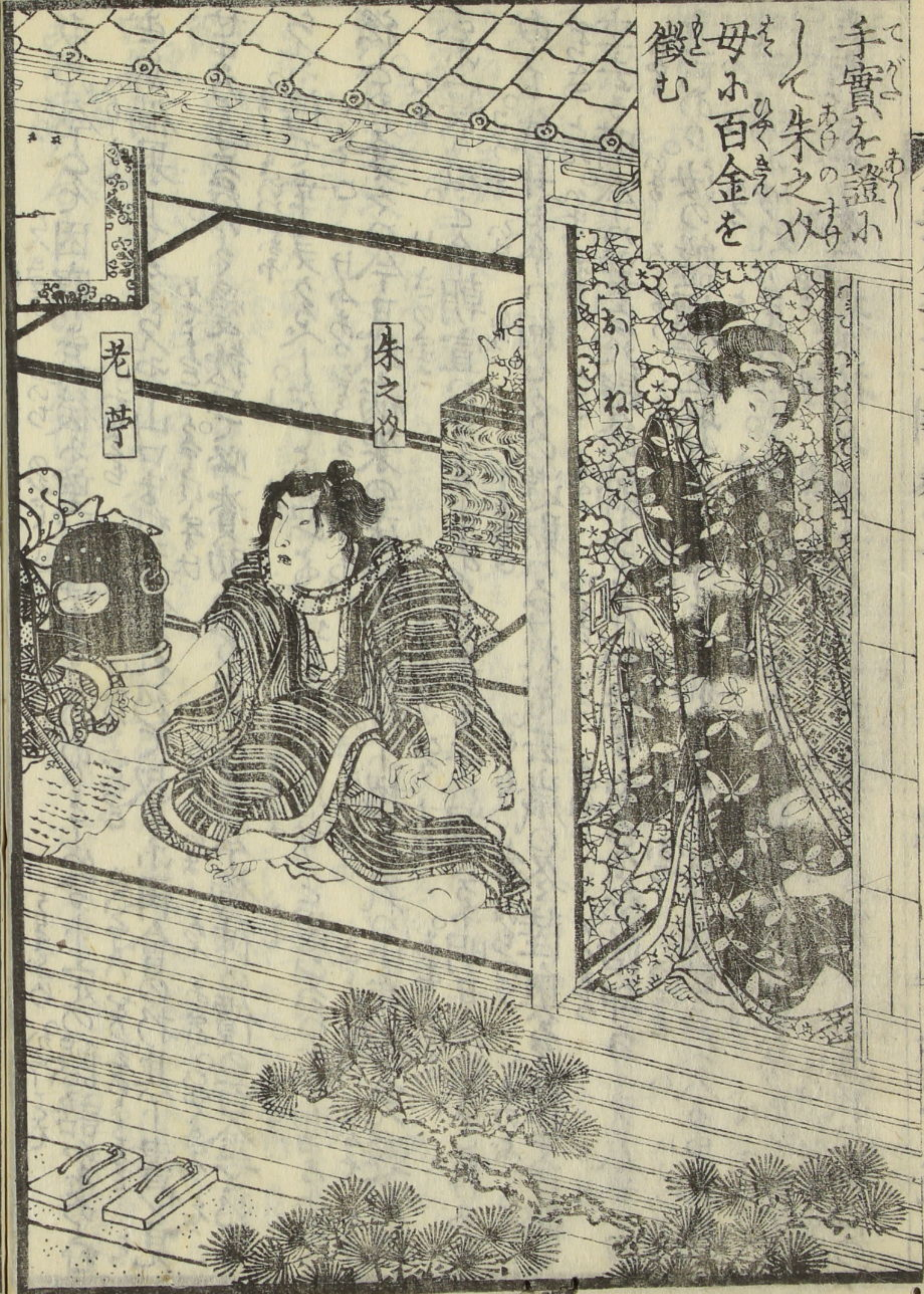
同試其折寫ておこされし書一通茲小あり。その漢字を讀むも
 要あるべしと思ひしか。躬て餘の腰吊の護身書表小秘置しか。佛生山
 在りし比失きやせと思ひ入くと。移して我身の神符書表小藏り置
 きた。幾層の羊と麻布の故の隨ち今尚の是先讀てせんとし。懐
 抱の書表も其一通と會半と。卒と渡其朱之入のやうやく怒氣を流
 黙然と又死するも鮮た。其ト書と會上て讀程小老芋の膝を進め
 け。其文ふいへら。子而非子。非親是親。一窮一達因果輪々。五
 とあり。朱之入の面立番讀復し。もろをいね。眉を頻卑め。喃
 解し易からぬも親ふ。あらし。是親と。我身小實父の外。乾父
 四名あり。周防の叔も其中。氣其頭は。向小老芋の沈吟。今
 こそ思ひ合。なれ。あ。周防の叔。々の。の。の上。と。一窮一達云と

ある。今こそ困窮され。後小望と達する日。あり。と。一定の隱語を
 ぞ。あ。備果して。あ。山口。三石。見
 せ。ま。あ。愛。必。資。助。あ。今。拘。神。の。價。の。百。金。と。は。
 ら。倍。で。幸。ま。う。る。べ。し。左。も。右。も。這。家。小。同。居。せ。と。思。ひ。入。と。留。る。あ。ら
 後。と。も。多。々。の。今。日。或。病。架。の。床。徹。の。壽。祝。小。招。と。これ。が。小。夜。深。る。ん。邊。に。俟
 未。寐。寝。り。ね。と。今。朝。宣。ひ。せ。よ。も。あ。り。日。見。京。も。午。の。過。り。小。明。日。立。去。る。と。も。け。あ。ら
 わ。ら。し。我。身。も。今。の。何。と。う。の。遊。財。の。存。れ。も。去。歲。の。冬。陸。奥。の。信。夫。の。御。を
 立。去。る。時。今。の。要。る。た。髪。の。飾。り。と。花。や。た。る。衣。を。と。活。却。り。る。金。子。四
 五。兩。あり。汝。の。盤。纏。よ。取。せ。を。卒。と。躬。と。身。と。起。し。納。戸。へ。入。る。影。護
 死。晚。稻。小。埒。れ。見。られ。と。思。ひ。入。の。安。ら。ね。我。物。る。う。次。無。む。が。如。く。圓。金
 五。兩。と。出。し。麥。の。紙。小。拈。り。朱。之。入。渡。ま。と。楚。と。受。取。て。の。五。枚。の。百。兩。の



吾足奇

五十五
十六
七



老芋

朱之丸

手實を證小
く朱之丸
母小百金を
徴む

五十五
十六
七

一割ふも足らねども。るたの優べ。罷りてん今より浴。結髪友しく柏杞村
 る宿六許訪きて那里一宿明しく。翌日起行を便宜はれ。阿余の還
 さを俟着て救ふ告別せ。復も口舌の起りやせ。身代り左も右も宜く
 禀しぬ。う。と。い。衣と脱更て豫準備の長財囊。金子いさら。卜書
 さ。錢さ。藏めて腹小纏締。外敗衣敗脚絆。踏皮も一緒推圓。あて
 袱小包。る。と。ま。世官。さ。ま。でも。送る。も。櫛へ。も。東西。足らぬ。腰小短。逆旅
 刀。ぎ。て。住方。の。定め。る。雲と水との別路。小老芋の餘波。惜まれ。涙と共
 ら。め。る。只。獨子。と。放。遣。る。直。愛。の。傳。世。の。習。と。思。絶。て。も。又。あ。る。の。何。時。と。知
 ら。ね。堪。難。い。涙。う。ら。啞。で。送。別。聲。曇。ら。て。を。珠。上。周。防。の。ら。ん。那。里。ま。れ
 落。着。着。地。方。と。は。ぬ。日。小。又。蝨。く。便。と。せ。せ。下。か。い。な。う。嘔。々。と。諺。返。ま。と。朱。之。分。の
 応。へ。の。と。も。て。袱。包。を。草。履。而。も。引。提。て。去。関。上。り。い。そ。く。出。て。由。は。け。り。是

日晩稲の己の時候より。頭痛さ。と。と。納戸小在り。寝とる。小横臥。て枕小
 就て。在り。一。程。母。の。老。芋。と。朱。之。分。の。密。談。を。洩。せ。か。ど。起。坐。ん。の。さ。を。多。め。て
 故。の。儘。を。在。り。ける。程。小。阿。夏。の。老。芋。の。去。関。小。朱。之。分。を。目。送。果。て。も。晚。稻。起。て
 出。て。も。来。ま。他。の。告。白。を。わ。り。り。と。思。ひ。奥。小。入。る。折。る。思。ひ。か。け。る。五。日。正。齋
 が。か。り。来。て。坐。席。小。在。り。老。芋。の。驚。は。且。訝。り。て。あ。ん。身。今。宵。云。云。中。く。深。け
 志。の。還。り。か。ら。る。べ。と。宣。い。甘。小。誰。何。を。や。生。平。より。も。口。取。早。う。り。死。と。い。は。ま。て。吾
 足。齋。然。然。と。ま。今。日。十。日。綿。屋。の。床。徹。の。賀。席。小。招。れ。る。祝。を。此。の。人。情。を
 齋。せ。む。い。あ。ら。む。と。方。僅。心。つ。死。か。か。そ。と。整。え。ん。為。小。の。背。門。も。又。り。来。け。り
 身。と。又。彼。珠。が。長。問。答。の。顛。末。を。聞。と。る。小。听。知。り。て。呆。ま。る。あ。の。腹。と
 立。も。團。坐。小。入。ら。妙。を。と。思。ひ。久。く。躲。ま。る。在。り。彼。奴。が。出。て。也。く。背
 影。を。見。り。頭。れ。せ。る。え。斯。い。何。と。あ。ら。ん。無。慈。悲。の。似。と。れ。も。破。落。戸。と

知りきり珠之入と留置後竟親の首小繩と撰ることをうらやまと思ふは
 安らうさうしあ彼奴が猛可小解去りし我と你の厄穰也是より進化直るべし
 就中彼拘神の百両の事実を引裂衣棄する雄々し然你的掙にの答るも猶わま
 せあり適五目は妻をう哉とられて老芋の苦笑ひして原來言皆ゆれけ血分
 たる親子でも彼百金的情由あれ出でし程さかひかざるも猛可他があらる
 母の後邊邊小居ると老芋の急小見久りて晩稲頭痛を瘥り一飲你の告
 かの糸米と云ふ云と云と五口足齋推禁也彼奴の生涯未だもあま養老小
 嬢の晩稲ふふ恙もるる我夫妻夫婦の左團扇で百年までも樂徳居とやいつ
 づらん其頭の餘談の後小志彼進物と何まれ彼見繕とて出さま日短
 きふといをそ老芋の那這搔撈りて稍合出ま堅魚脯と三飲五飲推裏む

陸奥紙小楮線掛て標題字を走筆を編絹袂小重東衣とて卒を
 渡まど五口足齋の受取り得と見て是で好これども今朝もいひるる
 今宵我がかへの遅く前後都てよく鎖して寝まを敵くを俟のいふと
 々も刀の端衝立て身と起し遠く背門より出であれけ小程小朱之双腹
 計較むあれ猛可小母小別と生口て立去りてもま遠くはるる巷頭を銭浴
 室で浴あつ節頭店小立よりて結髪とままる程小肚裡小又思ふさ往る比
 城内で試験の折小思ひかひる九四郎の弟る朱六奴を敵小小志
 彼奴が口より我昔悪を漏さ人小知られせん夏の破小至らぬ先小菓も易
 名と豫も思ひさる小あらねとも拘神の價百両金を取らるるんさま
 母と債揮一甲斐もる絶小五両と餞別小當親とこれと西園まの盤
 纏いさるる小使料中も春の雪程なく消てあらるるんさ商量敵小是

むとも先宿六許赴^{まづちゆうろくかりかひ}て^{さか}立^たる^る腹^{はら}と横^{よこ}に^まる^るま^まと氣^きと轉^まて^くと^と左^{ひだり}も右^{みぎ}も去^さ
 向^{むか}と定^{さだ}る^るふ^ふあ^あくとあ^あら^らどと深^{あは}念^んと^とあ^あつ^つ其^{その}前^{まへ}面^{めん}る^る酒^{さけ}肆^しと^と酒^{さけ}一^{いち}介^けと^と小^こ鐘^{かね}
 節^{ふし}せ^せく酒^{さけ}菜^なさ^さ二^に三^{さん}種^{しゆ}買^かと^とあ^あと^と袷^{あし}包^ひと^と一^{いち}荷^にふ^ふと^とや^やと^とら^ら肩^{かた}う^うち^ち被^かけ^け拘^く
 杞^{かき}村^{むら}と^と投^なて^てい^いを^を程^{ほど}下^{くだ}眺^{なが}め^める^るの^のけ^けり^り既^{すで}に^に米^{こめ}之^の人^{びと}拘^く杞^{かき}村^{むら}に^に来^きり^りけ^けれ^れば^ば見^みえ^え
 忘^{わす}れ^れぬ^ぬ宿^{しゆく}六^{ろく}の^の門^{かど}も^も裏^{うら}面^{めん}を^を刺^さ窺^ぞひ^ひて^て宿^{しゆく}六^{ろく}の^の宿^{しゆく}所^{ところ}に^に在^あり^り投^な珠^{しゆ}之^の人^{びと}来^きり^りと^と見^み
 両^{りやう}三^{さん}番^{ばん}呼^よび^び門^{かど}に^に応^おと^と答^{こた}へ^へて^て敗^{ひた}紙^し戸^この^の走^は難^{がた}を^を左^{ひだり}右^{みぎ}と^と推^おし^して^て迎^{むか}へ^へと^と見^み
 れ^れ宿^{しゆく}六^{ろく}の^の門^{かど}に^にあ^あら^らせ^せて^て年^{とし}二^に五^ご六^{ろく}の^の一^{いち}箇^ごの^の壯^{さう}校^{がう}面^{めん}の^の色^{いろ}黒^{くろ}く^くと^と被^か塗^ぬの^の昔^{むかし}昔^{むかし}の^の如^{ごと}く
 身^み材^{ざい}高^{たか}く^くと^と局^{きやう}院^{いん}の^の金^{きん}剛^{ごう}の^の似^にた^たる^るが^が横^{よこ}編^ある^る方^{かた}袖^{そで}の^の綿^{わた}衣^いの^の申^まし^し時^{とき}可^かる^るを^を被^か
 柿^{かき}色^{いろ}の^の故^ゆり^りたる^る細^こ布^ぬと^と帯^{おび}も^もあ^あら^らせ^せ破^{やぶ}れ^れて^て大^{おほ}指^{さし}の^の頭^{あたま}を^を官^{くわん}緑^{りく}の^の刺^さ踏^ふ皮^{かわ}を^を穿^くて^て背^せの^の風
 見^みを^を撥^はる^るが^が奥^{おく}も^も出^いて^て来^きぬ^る之^の此^{こゝ}に^に是^{こゝ}何^{なん}人^{びと}を^を開^あき^き下^{くだ}回^まり^り解^と分^{わか}る^るを^を聽^きけ^けり^り

新局玉石童子訓卷之十二終



